

留学生との継続的な交流活動のご提案

東京へボンクラブ会員 各位

平素は東京へボンクラブの活動にご理解、ご協力を賜り御礼申し上げます。
お陰さまで当クラブの例会も、1958年に発足以来本日の午餐会で206回を迎えることが出来ました。今後もへボンクラブ綱領に掲げる「全明治学院人の交わりを深める」事の実践のため活動していく所存です。よろしく願いいたします。

さて、この度会員様、世話人の有志の方より表題の件についてご提案を頂きました。世話人会で検討をいたしました結果、世話人会の総意として会員の皆様にご提案させていただきます。

1940年代、他大学において、留学生の受け入れ制度が確立していない中、明治学院ではいち早く留学生の受け入れを実施しておりました。その中のお一人は明治学院で受けた教育、また学生との交流をかけがえのない思い出とし、明治学院人としての誇りをもたれ、今も当時の同級生との交流を続けておられます。国際化を強化する学院の方針もこのような交流の事例のもとに有効に機能すると思っております。

現在も明治学院では多くの留学生が学んでおります。東京へボンクラブでは先輩方が続けてこられた交流の歴史を後輩の皆さんに引き継ぐ一助となるべく、留学生の皆さんに少しでも心の和む集いの機会を提供し、会員の皆様との交流を通して双方の歴史、文化を学び、理解を深めて行く事で明治学院人としての誇りを大切にし、留学生の卒業後も当クラブの例会等を通じ、交流の架け橋としてお手伝いさせて頂きたいと考えております。

留学生に対するアプローチは、麓、新井両世話人を中心に進めており、学長の鶴殿先生には先日趣意書をお送りいたしました。また教養教育センターの植木先生にもご理解、ご協力を頂き今回4名の留学生をご招待出来る事ができました事をご報告させて頂きます。今後も例会に2名ほどの留学生をお迎えして行く予定ではありますが、なにぶんにも費用がかかることとなります。前述の当クラブ有志の方々からは貴重なご寄付も頂いておりますが、会員の皆様にも毎例会時に、一口100円（一口以上）のご寄付を頂ければ幸甚に存じます。

この度の趣旨をご理解頂きご協力をお願い申し上げます。

平成26年12月6日
東京へボンクラブ会長 長岡宣好
世話人一同